
大人のための異文童話集17 カエルの小瓶

天野久遠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

大人のための異文童話集17 カエルの小瓶

【Nコード】

N7637N

【作者名】

天野久遠

【あらすじ】

過ぎたるは及ばざるが如し

遠い昔のことでした。

川の流れに合わせて小瓶を流せば、必ず届くと信じていた、寂しがり屋のカエルがいました。

確かに小瓶は流れて行くけど、でも、それを拾うものがなければ、小瓶そのまま何処かへ……。

小瓶に入れた、カエルの寂しい想いは見えはしない。

小瓶の中に見えるものは、ただ小さな手紙だけ。誰かがそれを読んでもいいようにと、胸の内を覆ったコトバだけが詰まってるのです。

流れて行く川の先きに、いったい誰が待つのか……。

カエルを待つものなどいるはずありません。

自分でもそれは分かっているのに、カエルは毎日我慢強く、小瓶の帰りを待ち続けてるのです。

たくさんの雨が降れば川の流れも変わだろう。

流れが変われば、この手にきつと小瓶も戻るだろう。そう思いつつ何度も何度も……。

白馬に乗ることは出来なくても、寂しがり屋のカエルは、それでもカエルの王子様。

あの美しいお姫さまがやって来て、この醜い姿の呪を解いてくれると信じているのです。

早くたくさんの雨が降ればいいな、そう思いつつ、カエルは空を見上げてはゲコゲコ鳴きます。

そのうち空は、そんなカエルの声に答えるように、嵐のようなたく

さんの雨を降らせたのでした。

カエルは待ちに待った時が来ると思って、大きな期待を胸に秘めて待つのです。

小瓶が流れ、自分の元へと戻って来ることを思って、ひたすらに待つのです。

カエルは毎日、そんな期待を込めながら川を眺めてゲコゲコ。

一度だけ……。

お城の池で目にした、あのお姫さまに届いたかな。

彼女はいつも川辺で遊んでいるといていた。

川辺ではしゃぐ楽しさに、勝るものはないのだと言ってた。

カエルは彼女のその言葉を信じて、あれから何度も川に小瓶を流してみたけれど、いつまで経っても流した小瓶は戻って来ません。

川辺で遊ぶより、もっと楽しいことを見つけたのだろうか？

そんなことを思いながら、またカエルは、ゲコゲコと雨を呼び続けたのです。

そんなある日のこと。

ひとつの小瓶がカエルのいる川岸に届きました。

でも小瓶の中にあった手紙には“お姫さまは溺れて死んでしまいました”と書いてあったのです。

そのときカエルは、自分があまりに夢中になり過ぎて、いつでも必要以上の雨を降らせていたのだと知ったのでした。

小瓶が戻って来ることを願いすぎたから……。

小瓶に託した想いが強すぎたから……。

自分がお姫さまを殺してしまったのだと、いつまでもいつまでも、カエルは泣き続けたということです。

だからカエルは雨の気配がすると、空を見上げてはゲコゲコ鳴きま
す。

死んでしまったお姫さまを慕っては、今も悲しく寂しくゲコゲコと、
鳴き続けているのです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7637n/>

大人のための異文童話集17 カエルの小瓶

2010年10月10日12時23分発行